



自己の利害を離れる

- ① 超越的存在を認める
- ② 人心を救済する
- ③ 正義と平和を希求する
- ④ 知徳一体を説く
- ⑤ 人間の弱さを慈しむ

解決のポイント

自己の利害から離れるという世界の諸聖人が示した「最高道徳」の実践が、現代社会の諸問題を解決する糸口になります。

その働きを愛や仁、正義や慈悲の心ととらえ、幸福実現の指針とする(超越的存在を認める)

② 自己の利害を離れて、人間の精神の育成と救済に努める(人心を救済する)

③ 自己の利害を離れて、正義と平和を希求する

④ 自己の利害を離れた「品性」を養うことを重視する(知徳一体を説く)

⑤ 自己の利害を離れて、困難に直面して苦悩している人、悲しんでいる人、迷っている人、その一人ひとりの心を救い、希望を与える(人間の弱さを慈しむ)

これらに共通しているのは、自己の立場を超え、自己の利害を離れるところにあります。聖人たちは自己の利害から離れることが、真に自己を大切にすることにつながることを示してくれています。

モラロジーでは、世界の諸聖人に共通する道徳を「最高道徳」と呼んでいます。どれも決して簡単なものではありませんが、最高道徳を基盤として現代社会の解決困難な課題に向き合うことが、ますます必要となってきているのです。

今月の範囲

- 第一部 基礎編
- 第四章 普通道徳から最高道徳へ二、求められる最高道徳

モラロジー研究所の概論講座で使用されている改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は、「最高道徳」の特質について図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

最高道徳の特質

—— 自己の利害から離れる

みやしたかずひろ 廣池千九郎研究室室長 宮下和大

現代において、未解決のまま事態が深刻化していく諸問題の背景には、「自分が正しい」と考える道徳的価値観の限界があります(前号「普通道徳の限界」)。

例えば、環境問題では各国の意見が食い違うために、国境を越えた環境保護が行えない現状があります。身近なところでは、子供の教育方針の食い違いから離婚に至るケースもあります。これらほどもちろん各自の立場や価値観を主張しすぎることが原因で、大切にしたいものを守り育てるという共通課題の解決を困難にしている事例です。

現代社会が抱えるこうした難問への手がかりを、モラロジーでは世界の諸聖人(釈迦、孔子、ソクラテス、イエスなど)の心の用い方に求めています。彼らは私たちが考える普通道徳とは全く異なる視点から示唆を与えているからです。

では、私たちが考えている道徳に欠けていて、諸聖人の道徳に共通して備わっている特質とは、いったいどのようなものでしょうか。それは以下の通りです。

① 自己の利害を離れて、人間を超えたもの(天、神、法、自然など)の存在を認め、